様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：２２４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ０４１４５

研究課題名（和文）対話で創る公私連携の地域づくり-家族間の高齢者虐待を予防するために-

研究課題名（英文）Restorative Justice Dialogue for Elder Maltreatment Prevention in Japan

研究代表者
梅崎　薫（Umezaki, Kaoru）

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授

研究者番号：５０３２０８９１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、高齢者虐待を予防するために、専門職と地域住民が共に地域で対話するプログラムを開発した。実施マニュアルには、修復的正義の理念を平易な言葉で説明し、市民ボランティアが修復的対話プログラムを実施できるようにした。修復的対話は加害と被害、それを取り巻くすべての関係者が対等に安全に対話できる構造をもつ。カナダやフィンランドでは多様な孤立しやすい人々とお互いの異なる価値観を共有し、水平的正義を価値創造することで、社会的排除を防ぎ虐待や暴力を予防しようとしている。日本でも通報後の介入でなく、虐待の潜在的リスクを認識してグレイゾーン段階で支援して虐待の萌芽を摘み予防できることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
研究成果より、トーキングサークル実施マニュアルを完成させ、修復的正義に関する市民向けの入門書を日本で初めて出版した。市民とともに実践できる基盤を創り、対話の担い手を育成するキーパー養成講座を開発した。専門職向けには、高齢者虐待を再発防止するのでなく、心配だなと感じるグレイゾーンで未然防止する必要性を示し、カナダの潜在的虐待スケールを援用してグレイゾーンを特定、日本高齢者虐待防止学会誌に掲載された。

研究成果の概要（英文）：This study developed the Restorative Justice Dialogue programs in order to prevent elderly maltreatment. The manual book was tried to explaine about an idea of the restorative justice without terminologies,because not professions but also non-professions can understad and practise Restorative Justice Dialogue in communities. By this dialogue we can share our different value each other. The structure of this dailogue helps to keep safe field.
In Canada and Finland,dailogue programs were used to prevent social exclusion and abuse in communities. Canadian Indicators of Abuse(IOA)Screen was used and scaled Japanese potential risks of the elder abuse on Japanese reported maltreatment cases. Gray Zone cases were identified to assessment ealy dialogue intervention.

研究分野：社会福祉学

キーワード：高齢者虐待　家族間暴力　予防　修復的正義　対話　社会的孤立　地域　アセスメント

１．研究開始当初の背景

家族間の高齢者虐待は社会的孤立と相まって生じることが多い。カナダでは、家族間の葛藤に対して専門職とトレーニングを受けたボランティア等の第三者が、家族間の対話を支援して関係修復する虐待予防の取り組みがなされている。用いられているのは平和構築学、紛争解決の対話で、修復的正義（Restorative Justice：ＲＪ）アプローチによる対話で、葛藤を未然に防ぐ０次予防の対話と葛藤解決する１次予防の対話に区別することができる。

２．研究の目的

日本におけるＲＪ対話の導入方法、実施手順を確立するために、本研究では０次予防のＲＪ対話における導入方法と実施手順を確立する。次に、潜在的リスクアセスメント得点（IOC 得点）を手がかりに、修復的対話の適用に関するアセスメントについて、修復的対話を提供している CJI の担当者にインタビュー調査し、過去のケーススタディから IOC の妥当性などを聴取して、日本での修復的対話の適用基準を検討することである。日本とカナダの高齢者虐待が懸念されるケースについて、その葛藤の程度や内容、その他の考慮すべき事項などを比較しつつ検討し、実践的な意見をもとに日本での判断基準を考察する。

３．研究の方法

ＲＪトーキングサークル､高齢者デイサービス版と女性のための対話版プログラムを用いて、実施協力者を募り増やす｡これにより確保できた協力者に毎月１－２回の RJ 対話を実施してもらう。実施期間は短くても半年間とし、その後、ＲＪ対話を実施するようになって、また参加するようになって、どのような変化があったか、もしくはなかったかなどをインタビュー調査により明らかにする。インタビューにおいて変化があった場合には、それはどのような変化だったのか、ＲＪ対話の効果として報告されている、参加者間のつながりの形成、癒し、関係性の変化に着目して、研究者と実施者との参加型で評価する。また可能ならば研究者と実施者および参加者との参加型評価も試みる。インタビュー方法は、個別インタビューとグループ・インタビューになる。

平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月までの全ての通報ケースのうち、虐待判断された事例と虐待判断されなかった事例、全く虐待の心配はない安心事例について、越谷市の協力を得てカナダで用いられている潜在的リスクアセスメントシート（IOC）で高齢者介護に携わる専門職にアセスメントしてもらったところ、日本の虐待判断においても統計的に有意な差を認め、日本でも IOC を援用できると分かった。そこで、この結果を先の調査に協力してくれた日本の専門職に報告し、家族関係を修復に向かわせる対話の可能性についてインタビュー調査する。
また同様に、既に対話での関係修復を支援しているカナダの CJI 担当者にも日本の結果を報告して、高齢者と家族の葛藤の程度や内容、その他考慮すべき事項など、修復的対話の適用に関するアセスメントについて実践的な意見を聴取して、これをもとに日本における判断基準を考察する。インタビューはカナダにおいてはグループインタビューが想定される。日本でもカナダでも IC レコーダーの使用を承諾してもらえる場合には、IC レコーダーを用いて記録する。カナダでのグループインタビュー内容は、ＩＯＡ得点と対話ケース特定に関するアセスメントに関する意見聴取なので、個人を特定できる情報は含まずに聴取する。しかし個人情報を含まずに聴取が難しい場合には意図的に架空の修正を加えて個人を特定できないよう処理する。

４．研究成果

本研究は、高齢者虐待を予防するために、専門職と地域住民が共に地域で対話するプログラムを開発した。実施マニュアルには、修復的正義の理念を平易な言葉で説明し、市民ボランティアが修復的対話プログラムを実施できるようにした。修復的対話は加害と被害、それを取り巻くすべての関係者が対等に安全に対話できる構造をもつ。カナダやフィンランドでは多様な孤立しやすい人々とお互いの異なる価値観を共有し、水平的正義を価値創造することで、社会的排除を防ぎ虐待や暴力を予防しようとしている。日本でも通報後の介入でなく、虐待の潜在的リスクを認識してグレイゾーン段階で支援して虐待の萌芽を摘み予防できることを示した。

日本版の修復的対話トーキングサークル実施マニュアルを完成させて､修復的正義に関する市民向けの入門書を日本で初めて完成し出版したことにより、修復的対話を広く市民に周知し、実際に実践できる基盤を形成した。研究成果より、実施マニュアルを用いた対話の担い手、人材育成方法（キーパー養成講座）も開発した。実施団体として特定非営利活動法人も設立し、毎年 2-3 回各 10 人程度を育成できるようになった｡また高齢者虐待に対応している専門職向けには、早期発見したケースを見守って関係悪化したのちに再発防止介入するのでなく、早い段階グレイゾーンでの予防を、地域住民とともに実践できることを示すことができた。

５．主な発表論文等
〔雑誌論文〕（計　3　件）
"日本における高齢者デイ修復的正義の対話プログラムの試み　-高齢者虐待を予防する地域づくりにむけて-」査読あり日本社会福祉学会　社会福祉学　Vol.58-3(No.123) p54-67　2017

対話で創る公私連携の地域づくり -家族間の高齢者虐待を予防するために-地域ケアリング9月号 p54-55 2017

高齢者虐待を予防する修復的対話導入のためのグレイゾーンアセスメントの検討-カナダにおける潜在的高齢者虐待リスク・スクリーン(IOA)の援用-　査読あり　日本高齢者虐待防止学会 高齢者虐待防止研究 Vol.15,No.1, p64-78, 2019

〔学会発表〕（計　1　件）
Mindfulness-based Restorative Justice Circles at Senior Day Care Centers in Japan,Kaoru UMEZAKI, World Society of Victimology – International Symposium on Victimology 2018 Hong Kong

〔図書〕（計　1　件）
「修復的対話トーキングサークル実施マニュアル」梅崎薫、はる書房　2019

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等　RJ 対話の会ホームページ
https://rjtaiwanokai.wixsite.com/info/syuufukutekitaiwa#!

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：
研究者番号（8 桁）：

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。